

野毛山動物園リニューアルプラン（案）について

開園から70年以上が経つ野毛山動物園は、これまで多世代にわたる多くの市民の皆様に関われてきました。一方で、施設の老朽化やバリアフリー化、動物福祉への配慮などの様々な課題が出てきています。

そこで、今後も市民の皆様と様々な動物たちが快適に過ごせる動物園をつくっていくことを目指し、そのための指針となる「野毛山動物園リニューアルプラン(案)」を策定しましたので、報告します。

1 背景

- ・ 獣舎やバックヤード等の老朽化や園路のバリアフリー化、動物福祉に配慮した飼育環境の確保等の課題に対応することが求められています。
- ・ 野毛山動物園全体には多様な魅力(立地特性・ポテンシャル)があり、周辺施設と連携し、野毛山地区全体の価値を高めていく必要があります。

2 野毛山動物園周辺のエリアコンセプト



中央図書館や障害児者支援拠点(多機能型拠点)などの周辺施設と連携した多様な取組によるエリア全体の価値向上

中期計画 2022~2025

「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」の実現につなげていきます。

3 野毛山動物園リニューアルの考え方

(1) リニューアルの視点と取組の方向性

野毛山動物園の特徴を生かしながら、さらにその価値を高めていくための「①インクルーシブ」「②親子の楽しみを充実」「③動物とのふれあいを充実」「④都市型」の4つの視点を定め、これらに応じた様々な取組を進めていきます。

視点	取組の方向性
① インクルーシブ	a) バリアフリー化の推進・多機能型拠点との連携 b) 誰もが動物園を楽しみ、親しめる環境整備
② 親子の楽しみを充実	a) 多世代が楽しめる空間・機会の創出 b) 何度も来たくなる、記憶に残る場所づくり
③ 動物とのふれあいを充実	a) 好奇心や探求心を高める仕掛け・演出 b) いのちを感じる体験への誘い
④ 都市型	a) 野毛山地区の賑わい創出 b) 都心臨海部との回遊性向上

[コンセプトマップ]



(2) リニューアルのねらいと想定される効果

- A: 動物展示と遊びの融合
- B: 子育て世代などのホスピタリティ向上
- C: 飲食・休憩機能の質の向上
- D: バリアフリー化
- E: 動物の住みよい環境づくり

野毛山動物園に来園される皆様の
ワクワク感 満足感
の向上を図ります。

(3) 3つのゾーン

動物種の特性や展示のテーマ等に応じて動物園内を3つのゾーンに分け、リニューアルを進めます。



〈第Ⅰ期エリア〉

① ② ゾーン
⇒令和10年度までに整備

〈第Ⅱ期エリア〉

③ ゾーン
⇒第Ⅰ期整備後、順次整備

2 (仮称) ふれあいパークゾーン

身近な動物たちと多様な形でふれあうことで、子どもたちの感性を高めていける場所を整備します。

図4 ふれあいコーナー (屋根設置)



図6 動物を身近に感じられる新施設



図5 屋内休憩棟



3 (仮称) 絵本に出てくる動物たちゾーン

キリンやシマウマなど、絵本で目にする親しみある動物たちのいきいきとした姿が楽しめる場所を整備します。



図7 キリン・シマウマの展示場

1 (仮称) 野毛山へようこそ ゾーン

- 新たに生まれ変わる野毛山動物園を最初に印象付けるエリアとして、エントランス棟では動物の“映える”モニュメントやペンギンたちが来園者を出迎えるとともに、思い出に残る魅力的な物販コーナー等を整備します。
- 動物展示と多様な“遊び”の機能が融合し、天気や季節を問わず誰もが何度でも訪れたい屋内型施設『(仮称)ZOOPerienta! CENTER(ズーペリエンタ!センター)』を整備します。

図1 エントランス棟 外観



図3 ズーペリエンタ!センター 断面イメージ



※建物内部にエレベーターやスロープを設置し、約11mの高低差において、**観覧動線のバリアフリー化**を図ります。

図2 物販コーナー



4 今後の進め方(予定)

時期	内容
令和6年2月19日から3月19日	市民意見募集実施 応募方法：はがき・FAX・電子メール・電子申請システムによるインターネット入力フォーム
令和6年 4月から	① ふれあいコーナー屋根設置、屋内休憩棟等の整備 ② リニューアルに向けた調査・設計
5月	市民意見募集 結果公表
6月	野毛山動物園リニューアルプラン策定・公表
令和10年度まで	第Ⅰ期エリア(「野毛山へようこそ」ゾーン、「ふれあいパーク」ゾーン)の整備
令和11年度から	第Ⅱ期エリア(「絵本に出てくる動物たち」ゾーン)の整備